

「第2期京都市市民参加推進計画改定版 骨子」に関する市民意見の要旨と本市の見解

A：改定計画に反映するもの
 B：市民意見の募集時点で記載済み又は賛同の趣旨のもの
 C：今後の計画推進の際に参考とするもの
 D：その他，市政運営等で参考とするもの

(1) 計画全般 (計80件)

意見区分	意見要旨 (カッコ内の数字は意見数)	意見数	対応	本市の見解
1	<ul style="list-style-type: none"> ・「市民の市政への参加」がどのようなものかわかりづらい。具体例が必要。(4) ・市政参加は望ましいことだが，具体的にどのようなことが市政参加につながるのかわかりづらい。(1) ・内容が重複しており，文字が多く感じる。簡潔にわかりやすくしてほしい。(3) ・シンプルな計画を望む。優先順位をつけ，段階的に実施するなどわかりやすくまとめるべき。(1) 	9	A	市政参加がどのようなものかイメージしやすくなるよう，第2章，第4章において，可能な限り具体例を記載するとともに，計画全体を通じて可能な限り簡潔な記載に努めました。
2	英語と片仮名読みした横文字が多い。横文字は避けるべき。(3)	3	A	可能な限りカタカナ語は言い換えに努めました。適切な言い換えが困難なものについては，解説を付けるなどの対応に努めました。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・政策の基盤は市民であるが，市民は市が政策をするものだと考えている。この考えの違いを変える必要がある。(1) ・課題と未来像の共有には市民からも率先して要求要望でなく，対等の立場で情報を市役所と共有していく姿勢が求められることも記載してはどうか。(1) 	2	A	市民や行政等のあらゆる主体が対等の立場で知恵と力を出し合うことを様々な箇所に記載しました。
4	基本方針1の3つの施策の関係性の図と3つの基本方針の関係性の図は分かりやすく，良い図だ。同じ方針は同じ色で表現するなど工夫をしてより直感的に分かりやすくした方がより理解されやすいと思う。(1)	1	A	概念図の配色を変更しました。
5	・パブリック・コメントについて，周知期間が短いし，アピールが少ない。どう議論し，この案になったのかを示すことも必要。(1)	1	A	第2期計画の中間評価など計画改訂の背景を第1章から第2章に記載するとともに，資料として附属機関市民参加推進フォーラムでの計画改訂に向けた議論経過を記載しました。
6	・「市民との信頼」「交流」「対話」をこれまで京都市がどのように推進しその結果を評価しているのか明記すべきではないか。(1)	1	A	計画改訂の具体的背景が分かりにくいとの御指摘と受け止め，第2章に2期計画の取組の成果と課題を記載しました。

7	<ul style="list-style-type: none"> ・現計画での事例があり、そのことで京都がどう変わったのか、写真や市民・市職員の声を入れるなど分かりやすく掘り下げた方が関心を持つと思う。市民参加推進を謳いながら、市民の声が取り上げられていない第2期計画の骨子はおかしい。(1) ・この4年間の市民活動推進施策を総括し、市民の本当の声を聞くべき。市民の声が届く市政に。(1) 	2	A	計画改訂の具体的背景が分かりにくいとの御指摘と受け止め、第2章に2期計画の取組の成果と課題を記述したほか、市民参加推進フォーラムでの検討経過や今回のパブリックコメントに寄せられた御意見のへの対応を記載しました。
8	<ul style="list-style-type: none"> ・100人委員会が「市民とともに政策課題に取り組む協働型事業の充実」が目的なら、むしろ団体単位で集まってもらったほうがいいのではないか。100人委員会の価値（初めての人でもぼんやりとした課題・参加意識の人も参加できる）はもう少し異なるところにあり、それを前面に評価してもいいのではないか。(1) 	1	A	第2章に未来まちづくり100人委員会の評価を記載しました。
9	<ul style="list-style-type: none"> ・目指す未来像が具体的に理解しにくい、どのような京都市を市民参加型でつくっていくのか、わかりにくい。(2) ・目指す未来像に記載がある「希望の実現」とは誰の希望なのか、漠然としており、違和感がある。(1) 	3	A	第3章に記載の目指す未来像について、よりわかりやすくなるよう修正しました。
10	<ul style="list-style-type: none"> ・市会との連携について記述すべきではないか。(1) 	1	A	第1章及び第5章に市会との連携について記載しました。
11	<ul style="list-style-type: none"> ・市民と市職員両方がまちづくりに主体的に関わろうとする京都の未来像が想像できる。5年後の地域社会の姿が楽しみ。(3) ・骨子の内容の素晴らしさに感動している。一言一句にこだわった委員と事務局に敬意を表します。(1) ・市民参加はどんどん進めていってほしい。老若男女、さまざまな立場の市民が様々な行事と京都市の取組に参加することで京都市に住んでいる実感が高まり、愛着もわくと思う。市民のまちづくり活動が自分ごと、みんなごとになることはとても大切なことである。(1) ・市民参加に対する行政施策がとてもわかりやすい内容となっている。(1) ・まちづくりに多くの市民が参加できるように、参加から活動過程までをサポートし、また活動を活発化させるため、社会環境を整備するなど、とにかく活動しやすくするために環境を整備しているところが、特徴的でよいと思う。(1) ・外国籍の市民や来訪者も市民参加の一員である。その点をふまえている計画骨子を支持する。(1) ・行政・NPO・市民・企業・大学等が主体的に協働化を実現していくための京都市の姿勢が表れている。そのために情報共有の推進や対話を積極的に行っているように思う。(1) 	9	B	計画の趣旨等に賛同いただいているものであり、御意見の趣旨を踏まえ取組を推進していきます。

12	<ul style="list-style-type: none"> ・京都市民である自覚と誇りが大事。多くの市民が市政に参加することでよりくらしやすい町になると思う。(1) ・行政と市民が理解しあい、市民の参加を促し、市民の意見・感覚を行政にも反映させることを願っている。(2) ・市民が市政に参加しやすい方法・機会、まちづくりの担い手として主体的に参加できる事業・活動を充実させてほしい。参加したくなる工夫も考えていただきたい。(4) ・市民の意見を聞こうという姿勢が感じられる。まちづくりには行政だけでなく市民の意見がなければならない。しかし、理想ばかりのようで本当に実現できるのか、施策の数が少し多いように感じた。1つずつ全力を注いで成功してほしい。(1) ・市民では難しい多世代の事情配慮のアプローチは行政ならではのとても良いと思う。多様な主体との協働の仕組みを築くことなど、行政だからこそできることがあると思う。(1) ・まちづくり活動を活性化させる特效薬はない。行政は市民活動を把握し、情報発信の支援やつながりづくりの場など、地道な取組が必要だと思う。(1) ・京都市政の推進に市民参加は重要であり必要。間断なく進めてほしい。(4) ・市民主体の様々なプロジェクトをもっとサポートしてほしい。(1) 	15	B	計画の趣旨等に賛同いただいているものであり、御意見の趣旨を踏まえ取組を推進していきます。
13	<ul style="list-style-type: none"> ・市民が市政に参加するという見方だけでなく、市民活動に市政が参加するという見方をもってもらいたい。(1) 	1	B	市民参加推進条例では、市民の市政への参加を推進するだけでなく、市民の自主的ななまちづくり活動を尊重し、必要な支援を行い、協働に努めることを、京都市の責務として定めており、本計画はこの考え方を踏まえ策定しています。
14	<ul style="list-style-type: none"> ・市政に参加する市民は全体からみれば少数にとどまっている。(1) ・京都はまちづくり活動に市民が活発に参加している一方、市政に関心をあまりもっていない人も多いのが現状だと思う。(1) ・活動を知っている人がまだ少ないと感じる。(1) 	3	B	市政への参加の制度を活用される方や、自らまちづくり活動に携われる方はまだまだ少数にとどまっているということは、本計画にも課題として記載しています。
15	<ul style="list-style-type: none"> ・課題の共有を対話で進めていくことが最初の柱となっていることに大変共感する。(1) ・幅広い年齢層が未来像・課題の共有に参加できることを望む。(1) ・京都市と市民の情報共有は当然のことで、十分に推進し、市民参加を加速してほしい。(5) ・多様な主体との協働の目的が、市民自らのまちづくりの力である地域力を向上させることであることを理解した。行政サービスの多様化に対応する協働型社会の実現のためにも、地域力を向上させることは必要である。(1) ・京都市が未来のビジョンを示すことで市民はそれにむけてどうすればよいか考え行動ができる。(1) 	9	B	計画の趣旨等に賛同いただいているものであり、御意見の趣旨を踏まえ取組を推進していきます。

16	計画の趣旨をどのように周知し、参加するように働きかけていくのが課題。(1)	1	C	御意見の趣旨を踏まえ、施策を推進する中で、取組内容に適した効果的な周知、働きかけを行っています。
17	「市政」「まちづくり」の対象となる範囲が市域なのか区域なのか等、あいまいであり、本改定計画や市の施策にもぶれが見える。もう少し明確にすべきである。(1)	1	C	施策や事業によって、全市が対象となる場合、特定の域が対象となる場合があることから、施策や事業の推進の段階で、混乱がないよう、わかりやすい説明に努めます。
18	「京都市健康づくりサポーター」などの市政ボランティアが施策推進のための市民動員のためのツールにされていると感じる(1)	1	C	市政ボランティアは、施策等の実施段階での市民参加の機会を確保し市民の知恵と力をいかし、よりよい施策の実現を図ることを目的としています。こうした制度の趣旨や目的、また結果などを、市民の方としっかり共有できるよう努めます。
19	京都市特有の自治の伝統に基づいた「参加と協働」のあり方を京都市と市民が共有できるよう、市民に理解できるよう示してほしい。(1)	1	C	京都市の強みである「自治の伝統」が今日も引き継がれている一方で、まちづくり活動やコミュニティの持続性が課題となっており、その対応が本計画の目的の一つとなっています。
20	<ul style="list-style-type: none"> ・計画の名称から内容をイメージしにくい。名称を変更してはどうか。(1) ・すでに「参加」から、共に協力し合う「協働」のステージに来ていると思う。いずれ計画名を「市民協働推進計画」としなければならないのでは。協働のコンセプトを大いに打ち出していきたい。(1) ・内容は、「市民参加のさらなる推進」「課題と情報の公開と共有」「役所と市民の対話機会の増加を図る」「市政参加のバリアフリー化、学生や子どもも参加」「区役所の役割増大」にほぼ集約されるのではないか。(1) ・「課題を共有する」こと、「自分ごと、みんなごとにする」ことの2点は重要だが、わかりにくい。計画の周知時にはもう少し強調すべき。(1) ・「市政」と「まちづくり」の違いが分かりにくい。市政も最終的にはまちづくりに還元されるものである。例えば基本方針3を「市民の地域コミュニティへの積極的参加の推進」などイメージのわかりやすい区別にしてはどうか。(1) ・最も重要な方針は「基本方針3市民のまちづくり活動の活性化」であると感じる。その前提で方針1, 2があると思う。(1) 	6	C	<ul style="list-style-type: none"> ・本計画は、京都市の市民参加推進に関する行動計画であると同時に、市民の皆様にご覧いただき、さらなる市民参加の推進につながることも目的としています。御意見の趣旨を踏まえ、本計画の内容を市民の皆様にご覧いただきやすく伝えることに努めていきます。 ・本計画では、京都市が実施する政策、施策等を「市政」、市民が主体的に取り組まれる活動を「市民のまちづくり活動」として記載しており、「地域コミュニティ」は「市民のまちづくり活動」の一つの形と捉えています。
21	<ul style="list-style-type: none"> ・第2期計画のパブリックコメントの冊子の内容が難しい。情報量も多く、どこに注目すべきかわからない。(2) ・骨子の文字数が多く読むことにハードルがある。交通、環境などの項目に分けて生活上の話題に答えられやすい絵や写真をいれてはどうか。(1) 	3	C	本計画の内容は、あらゆる市政分野で取り組む必要があるため、総合的な記述が多くなっています。他の分野ごとの計画や方針、具体的な施策や事業の中に、この計画の趣旨をいかしていきたいと考えます。

22	・市民が責任を持つ領域に市政が入り込みすぎると、支援頼りの持続可能でない活動になり、市職員も疲労しそうだ。施策10～19は難しいと感じる。(1)	1	C	御意見のとおり、市民のまちづくり活動が、どうすれば自立的で持続的な活動となるのかという視点から、京都市はまちづくりの支援に取り組むことが必要です。そのためには、対話を通じ、双方の果たす役割をしっかりと共有することが重要であると考えます。
23	・市民はまちづくりの主人公であるべきだが、行政側が設定しない限り市政における市民参加は始まらない。このギャップについてどう認識をするべきかが分らない。(1)	1	C	まちづくりの主役である市民の皆様のご意見を踏まえた市政を行うことが、京都市の責務です。今後とも市民の皆様が参加しやすい制度の整備に努めます。
24	・市民参加や協働が進めば、議会の役割がますます重要になると思う。議会・議員の役割が変わっていくこと、その重要性について記載すべきではないか。(1)	1	C	本計画は、市長が市民参加をを総合的に推進するための行政計画であり、立法機関である議会の権能について計画で言及することは適切ではないと考えます。
25	・市民参加推進施策として投票行動の促進を掲げる政策を盛り込んではいかがでしょうか。(1)	1	C	本計画は、市民の市政やまちづくりへの直接参加を推進することを目的としており、選挙を通じての市政参加そのものを施策として盛り込むことは適切でないと考えます。しかし、施策6の施策の推進例に「市政や社会活動に参加することの意義や選挙の仕組み等について授業を実施」することを記載しており、このことを通じて、選挙への意識が高まることを期待しています。
26	・文化市民局所管のまちづくりアドバイザーが本計画所管の総合企画局の推進方策として有効と記載されているが、どのように評価したのか。まちづくりアドバイザーが部局を超えて市民参加の推進にどのように役割を発揮するのか具体的に示してほしい。(1)	1	C	本市のまちづくり活動の活性化の取組において、まちづくりアドバイザーの果たした役割は大きいと考えますが、その他の取組も含めて推進した結果であり、まちづくりアドバイザー制度のみを取り上げてこの計画で評価を記述することは適切でないと考えます。
27	・市民参加のモチベーションを分析しメリットを抽出して、同調する人たちに展開してみてもどうか(1)	1	C	市民参加のモチベーションは何であるのか等、調査を行うことは意義があると考えます。調査方法も含めて今後検討していきます。

(2) 市民との未来像課題の共有 (第4章 基本方針1) (46件)

施策1 市民との情報共有の推進				
意見区分	意見要旨 (カッコ内の数字は意見数)	意見数	対応	本市の見解
28	・オープンデータの具体的な用途・運用方法が示されておらず、明確性に欠けている。(1)	1	A	施策の推進例にオープンデータの具体的な取組を記載しました。

29	<ul style="list-style-type: none"> ・政策決定過程の透明化も重要だが、市民が一目で市政の状況がわかるよう、図示化や映像化など情報提供の工夫が必要だ。(1) ・テーマごとにデータを可視化してほしい。(1) 	2	A	施策の推進例に「分かりやすく数値化や図示化する」ことを記載しました。
30	<ul style="list-style-type: none"> ・影響力のある人のSNSで発信した内容などには、ハロー効果で人が集まる。このような効果を市民参加に活かせるのでは。(1) ・スマートフォンアプリでの情報提供の発想は良いが、種類が増えることを期待する。京都市と市民との間の新たな関係作りの礎となる「はぐくみアプリ」のようなスマートフォンアプリをより多くの人に知ってもらおう働きかけが必要。(2) 	3	A	施策の推進例にSNSやアプリ等の活用について記載しました。
31	<ul style="list-style-type: none"> ・メディアの発信力を活かす。例えば、京都新聞に市民参加の記事を掲載してもらうよう働きかけるなど。(2) 	2	A	施策の推進例に「民間メディアと積極的に連携」することを記載しました。
32	<ul style="list-style-type: none"> ・市民参加の募集メニューなどをもっと目に入るところで欲しい。(1) ・市政に関心のない人が気軽に手に入れられる情報提供の方法を検討していただきたい。例えば、市民参加推進計画のホームページをつくり、市民参加に関する情報発信をまとめて行えば、情報へのアクセスが容易になり、参加につながるのではないか。気軽な市民参加を促してほしい。(1) 	2	A	施策の素心霊に「市民参加やまちづくりの情報を発信するポータルサイトの開設」を記載しました。このポータルサイトを活用し、わかりやすい情報発信に努めます。
33	<ul style="list-style-type: none"> ・情報公開といってもどこまで公開が可能なのか、行政の方が市民よりも力が強く、最終的な決定権があるなら、市民が弱い立場となってしまうように、行政と市民が対等に参加できるような施策の追加をお願いしたい。(1) 	1	B	御意見のとおり、市民と京都市が対等の立場でまちづくりに取り組むためには、双方の持つ情報の質・量の差の克服が重要なポイントとなると考えます。施策1～3は、正にそうした点に着目したものです。
34	<ul style="list-style-type: none"> ・市政参加には行政が言いたくない情報、市民に耳の痛い情報（例えば、京都市の借金、道路100mを作るのにいくらかかるか等）を市民に積極的に提供する必要がある。その上で、何をすべきか、しないべきかを市民に問うべき。(1) ・市民参加の前提にはしっかり考える必要があり、そのためには何が課題で、市が何をしようとしているか市民に分かりやすく周知することが第一と考える。(1) 	2	B	御意見のとおり、社会課題の実情を表し、市民生活の将来不安につながるような情報も含めて共有していくことが必要であり、施策1に記述した「すべて積極的かつ迅速にオープン」にその趣旨を盛り込んでいます。
35	<ul style="list-style-type: none"> ・市民参加についての情報化をさらに進めてほしい。(1) ・オープンデータの推進は重要だと思う。(1) 	2	B	御意見の趣旨を踏まえ取組を推進していきます。

36	・防災等、いざというときの情報を普段から町内の人と共有していきたい。市にはもっと情報公開してもらい、市民の安心安全な暮らしに必要なことに取り組んでほしい。(1)	1	B	御指摘のとおり、市民と京都市、また市民同士の情報共有がまちづくりの推進には不可欠です。施策1～3はまさにそうした点に着目して盛り込んだものです。
37	・市政への参加に積極的になれない市民の意見もオープンにしてほしい。(1)	1	B	パブリックコメント等に寄せられた御意見は賛成・反対を問わず公表することとしております。今回の計画骨子への御意見にも市民参加に積極的な方、消極的な方双方の御意見が寄せられていると考えます。
38	・言うのは簡単だが責任がない。見識がある市民、メリットとデメリットのわかる市民を選定すべき、長期的な展望で考える必要がある。(1)	1	C	京都市職員が対話する相手の選定、あるいは附属機関の委員など市政への参加を促進すべき市民の選定なのか御意見の趣旨が分かりかねますが京都市は多様な市民の方々と対話を進め、また市政への参加を求めていく必要があると考えています。
39	・情報共有・情報提供の推進に工夫がされているかどうかは疑問がある。例えばインターネットの活用であれば、市民参加に関するイベント等のカレンダー表示に参加する立場にたった見せ方の工夫が必要ではないか。(1)	1	C	御指摘の趣旨を踏まえて、効果的な情報共有、わかりやすい情報提供となるよう、工夫に取り組みます。
40	・政策形成や決定の過程の原則公開を徹底し、非公開とする場合はその理由をホームページ上に公表してはどうか。(1)	1	C	情報公開条例では、政策形成途上の審議、検討、協議などの情報で、公にすることにより、率直な意見の交換等を損なうおそれがあるものなどは、非公開情報と定められていますが、施策の趣旨にあった適切な情報提供の方法を検討していきます。
41	・情報共有にあたり、京都市に都合の悪い情報もそのまま共有されるよう、チェック・評価機能を内部に充実させることが必要ではないか。(1)	1	C	情報公開制度に関する開示情報のチェック機能につきましては既に制度整備がされていますが、任意の情報提供に関してどのようなチェックや評価を行うかについては、今後の検討課題とさせていただきます。

施策 2 市民と市職員の対話の推進				
意見区分	意見要旨 (カッコ内の数字は意見数)	意見数	対応	本市の見解
42	・広報物の配布や繁華街の清掃といった、本来行政がやるべきことや、施設管理者に指導してやらせるべき仕事を、市民ボランティアや善意の市民にやらせている。本計画に描かれているようなまちづくりへの積極的な参画が難しい。まず市がやることをやるべきである。市職員の市民参加に対する考え方は間違っているのでは。(4)	4	A	市民参加の推進、特に協働のまちづくりを進めるためには市民と京都市の役割分担に関する相互理解が重要であり、「問題意識や思いなども含めて共有する」ことを記載しました。
43	・東山区のまちづくりカフェに参加している。企画に参加し、地域の方と出会える機会などができ大変よかった。しかし、地域の方から身近に感じる問題に対して行政の取組を知りたいとの声がありましたが、それに関する糸口が見つけられなかったせいか、地域住民の参加が減っていることが気になる。そのことから、市民との未来像・課題の共有を東山区役所でも具体化されてはと考える。(1)	1	A	施策の推進例に「市民同士が地域のまちづくりの問題発見・分析や課題の設定に取り組む場に、市職員の積極的な参加を推進」することを記載しました。
44	・市民との情報共有は重要、そのプロセスに時間をかけていくことが参加と協働につながる。市民と行政が同じ目標に向かっていくように取り組まれることを期待する。(3)	3	B	御意見の趣旨を踏まえ取組を推進していきます。
45	・施策や事業を進めるにあたり、反対の立場の意見が目立つ傾向があるが、静かに見守っている賛成の立場についても把握し、反映していただきたい。(1)	1	B	御意見の趣旨を踏まえ取組を推進していきます。
46	・市民と市職員がまずは一人の市民として知り合えるような機会があれば市政への関心も高まる。(1) ・市政について分かりやすく知ることができる場、自由に話せる場や政策提案できる場をつくって対話をすすめてほしい。(1) ・市職員と市民の直接対話の機会の充実を推進してほしい。(1) ・市民がどう考えているのか声をもっと聞くことが大事だと思う。(1) ・市民講座を実施したときに、市職員がきていただいたことでとても助かった。(1)	5	B	御意見の趣旨を踏まえ取組を推進していきます。
47	・市民と市職員の対話の機会として、ホームページや掲示板、チャット等ITを活用してはどうか。(1)	1	C	対話のツールとしてインターネットの活用も一つの方法と考えられますが、当面の取組としては、対面でのコミュニケーションの機会の充実がより重要と考えます。
48	・パブリック・コメントの意見への対応方法を変更することで「市民と市職員の対話」に活用できるのではないかと。(1)	1	C	多数寄せられるパブリックコメントに対し、意見を寄せいただいていた市民の方々と個別に丁寧な対話を職員が行うことは現実的に困難であり、より有効な対話の手法を検討していきます。

49	・市民との信頼関係を築くために市職員が市民を信頼する態度について言及すべきではないか。(1)	1	C	対話を通じ市民との理解を深めることが、信頼関係の構築につながると考えており、施策2でその趣旨を説明しています。市職員が市民を信頼する態度ももちろん必要であり、趣旨を踏まえて取組を推進していきます。
50	・市民の感じている個々の課題を受け止める窓口や役割が市役所には不足している。(1)	1	C	市民の皆様の個別の問題に関して、様々な相談窓口を設けております。また、個々の問題にとどまらない社会的な課題につきましても、その対応を市民とともに進められるよう、対話の推進をはじめ様々な取組を推進していきたいと考えております。
51	「市政出前トーク」は市民が直接市職員の考えや実務を知る良い発想だが、「出前」という言葉自体が市政の出不精を肯定しているように感じる。(1)	1	C	御意見の趣旨も踏まえ、市職員が直接市民と対話する機会の充実に取り組んでいきます。「市政出前トーク」につきましては、事業名として定着していることから、今後の検討課題とさせていただきます。

施策3 市民と多様な主体が市政やまちづくりについて対話する機会の充実

意見区分	意見要旨 (カッコ内の数字は意見数)	意見数	対応	本市の見解
52	・市職員と市民の直接対話の機会の充実について、具体的にどう進めるのか明記されておらず、対等に課題に取り組めるようもう一足踏み込んだ宣言にしていきたい。(1)	1	A	施策の推進例に具体的な取組の方法を例示しました。
53	・まちづくりカフェは気軽に意見交換できる場として貴重。さらに増設を。(1) ・市民同士で日常的なコミュニケーションが必要。市民同士が気軽に集える場があることで、市民参加の意識が高まるのでは。(1)	2	A	施策の推進例に「まちづくりカフェ事業の全区への拡大」を記載しました。
54	・「自分ごと」と「みんなごと」を結ぶ仕掛けを工夫する必要がある。(1)	1	B	御意見のとおり、市政やまちづくりの課題が自分にとっても関係があると認識していただくことと、他の人にも関わる問題であると認識していただくことをどのようにつなぐかが重要であると考えます。施策3はそうした市民のみならず相互の課題共有のプロセスをつくることを目的としています。
55	・協働、市民参加により京都市を活性化するという熱意を感じた。特に寺社との協働ということについて真新しく、寺社は大勢の人が立ち寄る場であるから、協働の場として最適だと考える。(1)	1	B	寺社との協働については、御意見にある場の提供という形も含め、取組を推進していきます。

56	・合意形成の方法などが知らされていない団体の意見が「地元の意見」として扱われていることがある。市民参加を推進するに当たって、知らないところで総意が形成されているという事実が、地域コミュニティへの参加意欲を失わせ、市政への無関心を助長しているのではないか。(1)	1	B	御意見のとおり、情報が共有されないことが、市政やまちづくりへの参加意欲の低下につながることを懸念します。施策1～3はまさにそうしたことを解消することを目的に記載しています。
----	--	---	---	--

(3) 市民の市政への参加の推進 (第4章 基本方針2) (73件)

施策4 市政・まちづくりを「自分ごと」、「みんなごと」と感じられる情報提供の工夫				
意見区分	意見要旨 (かっこ内の数字は意見数)	意見数	対応	本市の見解
57	・「政策形成や決定の過程を最大限透明化する」具体的な方法を示してほしい。市のインターネットサイトによる情報開示はほとんど効果がないのではないか。TwitterやFacebookといった若者に身近なものを利用し、情報開示、提供する必要があるのではないか。また、パブコメくんを利用して親しみやすいものにしてはどうか。(2)	2	A	施策の推進例に具体例を記載しました。SNSの活用など情報提供方法の工夫については、施策1に記載しました。
58	・市民参加に関心が薄い市民が参加できるようにすることが重要。(1)	1	B	御意見の趣旨を踏まえ取組を推進していきます。
59	・市民にどれだけ周知・理解されているか疑問。市民参加が行なわれていることを知っている市民は少ないという現実をふまえてほしい。(2)	2	B	御意見と同じ趣旨の下、市政やまちづくりに関心の薄い方も含めて、参加を広げていくための方策を記載しています。
60	・市政参加には行政からの情報が重要。昔から京都は宣伝下手と言われるので、関心を持てるような広報をお願いしたい。(1) ・政策などわかっている市民は少ないと思うので、もっと市民の目に触れやすく、分かりやすくするべきだと思う。(1) ・まちづくりを「自分ごと」「みんなごと」と感じるためには、自分に利害があることでなければ難しい。市民にできるだけ身近なテーマでアピールし、できる範囲で扱うテーマを増やしていくことが参加の増加につながると思う。(1)	3	B	御意見の趣旨を踏まえ取組を推進していきます。
61	・政策形成や決定の過程を最大限透明化することを行政が行うには限界がある。アメリカのように民間への委託も視野に入れなければならない。(1)	1	C	費用対効果の面も含め、今後の研究課題とさせていただきます。
62	・大学に対する情報発信が不十分だと思う。まずは京都市では協働によって市を活性化させるということを知ってもらうために全学部の情報発信を行っていけばよいのではないか。(1)	1	C	御意見の趣旨を踏まえ、市民参加推進の方針など大学向け情報発信のさらなる工夫に取り組んでいきます。

63	・「市政に自分の知識、経験、専門性を」の部分について、逆に知識、経験、専門性が無いと参加できないと言われているような気がする。「自分ならではの」という表現にしてはどうか。(1)	1	C	御意見の趣旨を踏まえ、御提案の表記も含め別の表現を検討いたしましたが、適切な言い換えが難しくそのままの表記とすることとしました。
----	--	---	---	--

施策5 市政参加の仕組みのユニバーサルデザイン化の推進				
意見区分	意見要旨 (カッコ内の数字は意見数)	意見数	対応	本市の見解
64	・外国人の参加も必要。(1)	1	A	施策の推進例に「多言語化」について記載し、外国人の市民参加の推進を図ることが分かるように工夫しました。
65	・市政に参加する市民は少数であり、関心がない人にきっかけをつくる必要がある。誰もが理解でき関心をもちやすいようにするため、市政のユニバーサルデザイン化をすすめてほしい。バリアフリー化よりもユニバーサルデザイン化がよい。(2)	2	A	施策の名称を「バリアフリー化」から「ユニバーサルデザイン化」に変更しました。
66	・その場所へ行けない人のためにインターネットでの参加など自由度があればよい。(1)	1	A	施策の推進例に「インターネットを活用したアンケート・意見聴取の機会の充実」を記載しました。
67	・育休中の人や子どもを安全に楽しみながら預けられる、または、楽しく一緒に参加できる環境があれば、参加が増えるのではないか。その姿を見て子どもも興味をもち、未来のまちづくりの人づくりにもつながると思う。(1)	1	A	施策の推進例に「子どもも一緒に参加できる工夫」を記載しました。
68	・パブリックコメントのように広く市民から意見を聞くことは意見聴取のツールとして賛成。(1)	1	B	計画の趣旨等に賛同いただいているものであり、御意見の趣旨を踏まえ取組を推進していきます。
69	・まちづくりカフェなどの活動に参加する人は、ある程度現状に満足している層なのではないか。現状が本当に大変な人の声をどのように取り入れていくのかを意識しつつ協働の取組を推進すべき。(1) ・市民参加への意識の高さなど、多様な市民の事情に合わせて受け皿や参加方法を用意すべき。(1) ・様々な世代、誰でも参加してもらえるような配慮、啓発や環境づくりを更に進めていくことが大切。(4) ・仕事や日々の生活などで忙しくても参加できる仕組みや活動の場が必要。多くのことはできないが、フォローやその人の状況（子育て中でも子どもと一緒に楽しめる等）に合わせた活動が示されれば参加する。(7) ・しっかり考えるための課題や取組を分かりやすく周知してほしい。そのうえで市民が参加できる環境を作ってもらいたい。(1) ・子ども、大学生など若い世代の市政への参加を進めていただきたいが、子育てする女性・男性の参加が進んでいない。(1)	15	B	既存の市民参加の仕組みや事業では参加しにくい市民の声もしっかり受け止める必要性についての御意見であり、施策5はそのために様々な工夫を行うことを記載しています。

70	・自分本位でなく、地域発展のために政策のことを考えている市民の意見を採り上げることが重要だと思う。(1)	1	B	地域発展のことを考えている方の意見は大変貴重であると認識しています。また、同時に、多様な市民ニーズに対応するためには、京都市は様々な方の意見に耳を傾けていく必要があります。より多くの皆様に、市政やまちづくりを「ひとごと」ではなく、「自分ごと」、「みんなごと」と認識していただけるよう、計画に掲げる施策を着実に推進していきます。
71	・全てのパブリックコメントで市役所ウェブサイトから意見を応募できるフォームを用意すべき。意見の数も増えるはずだ。(1)	1	C	原則、御意見のとおりにすべきであり、市役所内で周知・徹底を図ります。
72	・まちづくりカフェについて、特定の層に偏らない工夫が必要。(1)	1	C	開催日時の工夫、託児対応など、あらゆる市民層が参加しやすい工夫を行っている取組も既にあり、意見の趣旨を踏まえて取組を推進していきます。
73	・スタンプラリーや抽選会があると市民イベントなどに参加しやすい。(1)	1	C	多様な市民が参加しやすくなるよう、御提案いただいた内容も含めて工夫を検討していきます。
74	・無作為抽出アンケートに答える人は少ないが、意見交換会のような場はインセンティブがないと参加する人はかなり少ないことから、ある程度利害関係のある市民に限って抽選すればよいのではないか。(1)	1	C	御意見の通り、意見交換会となると参加のハードルが高くなるということはお認めませんが、一方でより多くの方の参加のきっかけづくりという点では有効です。市民意見を聴く目的に応じて、適切な手法を検討します。
75	・本当に大変な人の声をどのように取り込んでいけるかが課題になると考える。例えば、京都の各企業・団体に働くすべての人にアンケートを配れば、満遍なく意見が聞き取れると思う。(1)	1	C	既存の市民参加の仕組みや事業では参加しにくい市民の声もしっかり受け止めること必要と考えます。御提案いただいた内容も含めて工夫を検討していきます。
76	・パブリック・コメントを回覧板で回してはどうか。アンケートにすると書きやすい。(1)	1	C	回覧板は効果的な手法であり、活用している例もありますが、一定の費用がかかるため、パブリック・コメントの目的に応じた効果的な手法を検討していきます。

施策6 子ども、大学生など若い世代の市政への参加の推進

意見区分	意見要旨 (かっこ内の数字は意見数)	意見数	対応	本市の見解
77	・行政は市民に頼ることを考えてもよいと思う。行政が市民に期待することをわかりやすく提示してはどうか。例えば大学生の技術などを利用した要望を大学を通して伝えてはどうか。(1)	1	A	施策の推進例に「市政参加の情報の大学生への積極的な広報」を記載しました。

78	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの頃から市民意識を醸成することが重要。ただし、子どもに呼びかけるときは、親など周囲の大人の理解がなければ難しいことから、子どもの周囲の大人の市民参加意識・理解を深め、子どもにも「面白そう」「やってみよう」という思う前段階が必要。(1) 	1	A	施策の推進例に「親世代への啓発」を記載しました。
79	<ul style="list-style-type: none"> ・選挙権を得る年齢が下がるにあたり、10代から20代の若い世代からの参加を重点的に得る施策があるとよい。中高生の政治参加や主権者教育をまちづくりの観点からできないか。大学生の多様な活動に中高生を巻き込んでいく仕組みづくりや、学校への出張講座など。(2) ・若い世代の市民参加を推進するには、幼い頃からの市政との関わりが必要で、市民意識を育むことにつながる。小・中学生の時期に役所への見学や市職員の講演など充実させることを提案する。(1) 	3	A	施策の推進例に「市政や社会活動に参加することの意義や選挙の仕組み等について、関係機関や関係団体と連携した授業を実施」することを記載しました。
80	<ul style="list-style-type: none"> ・市政参加がすすめば、政治の話が身近に感じられる効果も期待できる。若者の投票率の低下など政治への無関心が問題視されているが、そういった若い世代、また選挙権を得ていない世代にも門戸を開いていこうという取組は非常に魅力的だと感じる。特に高校生以下の年代で政治に触れる機会が日本には乏しかったので、貴重な機会につながると思う。(1) ・これからのまちづくりの担い手である若い世代の市政参加推進、市民参加の仕組み・体制は重要、一層の促進を期待する。(4) ・大学生が多い京都市の特徴を生かしているという点で、子ども、大学生などの若い世代の市政への参加の推進は特徴的で良いと思う。(1) 	6	B	計画の趣旨等に賛同いただいているものであり、御意見の趣旨を踏まえ取組を推進していきます。
81	<ul style="list-style-type: none"> ・市民の市政参加は好意や任意でなく、義務であると認識してもらうため、子どもへの教育、大人への啓発は重要。将来的に強制的な市政参加もあり得ることを示唆してもよいのではないかと。(1) ・市民参加を義務化することは遅かれ早かれ必要なことだと思う。参加しなかった場合に罰を与えるのではなく、授業の出席点を与えるというような利点を提供する半義務化により参加を増やすことができるのではないかと。まずは一度参加すれば「自分ごと」と感じてもらえるようになるのでは。(1) 	2	C	市政への参加は、履行しないと罰則があるような義務ではありませんが、市民に求められる役割として、大人、子ども双方の意識啓発が必要であると考えています。
82	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでには助け合いがあったが、今は若い人たちは助けってもらってあたりまえと考えている傾向がある。若者の考え方を変えていく必要がある。(1) 	1	C	子どもも含めた若い世代の市民意識の醸成が重要な課題と考えていますが、若者の考え方や行動の変化だけに期待するのではなく、価値観や世代特有の課題の違いなどの相互理解を深めることも重要と考えます。
83	<ul style="list-style-type: none"> ・札幌市の「まちづくり戦略ビジョン」副読本を使った中学校での授業や「子ども議会」など参考にし検討していただきたい。(1) 	1	C	御意見の趣旨を踏まえ取組を推進していきます。

84	・大学のカリキュラムとして市政参加の意見交流の機会をつくってはどうか。社会科学以外の学問を学ぶ学生、例えばミニ議会のような機会をつくれば関心が高まるのではないか。(1)	1	C	御提案のアイディアも含め、大学生の市政への参加の推進を図る効果的な手法を検討していきます。
85	・市政に積極的でない政策学科以外の大学生との連携を考えなければならない。(1)	1	C	各大学や大学コンソーシアムと連携し、政策系学部学生以外にも対象とした取組を実施しているところではありますが、御意見の趣旨を踏まえ取組を推進していきます。
86	・参加したことがない市民が多い状況では、参加を待っていても増えないと思う。小学生から高校生の間にまちづくり活動に参加することを教育課程に組み込むなど義務付けてはどうか。子どもの時に市民活動の経験をしていることで「まちづくりは大事であり、市民参加が重要不可欠」ということに気づき、大人になってからも参加するのではないか。(1)	1	C	御提案のアイディアも含め、市民意識醸成につながる効果的な教育の手法を検討していきます。

施策7 市政のあらゆる過程で市民の知恵や経験がいかされる参加の機会の提供				
意見区分	意見要旨 (かっこ内の数字は意見数)	意見数	対応	本市の見解
87	・パブコメくんをもっと活用し、パブコメがたくさん集まる方法などを全庁的に共有、パブリックコメントに対する意識を向上させてほしい。(1) ・職員が街頭でパブリックコメントに関するリーフレットなどを配布してはどうか。(1) ・パブリックコメントの募集期間を延ばし、市民しんぶんや広報板や新聞、SNSの活用等の広報に工夫をすれば、件数も増えるのではないか。(4)	6	A	施策の推進例に「対話型のパブリック・コメントなど、より多くの方に意見をいただける工夫を一層推進」することを記載しました。
88	・様々な方法で参加機会を設けるとともに、それらを十分反映できる適切なタイミングで実施に取り組むことが重要であり、そのタイミングがずれると協働でなく、従来の要求型の参加になってしまう。この点の創意工夫や京都市の意識改革が必要。(1)	1	B	御意見の趣旨通り、市民意見が十分反映できるよう、多様な手法かつ適切なタイミングで参加の機会を設けることが重要と考えます。「第5章 計画を着実に進めるための推進体制」にも記載しているとおり、市職員の市民参加推進に対する意識の向上等にも取り組みます。
89	・パブリック・コメントで、意見用紙にわかりやすいテーマや質問を明示してはどうか。(1)	1	C	御提案のアイディアも含め、パブリックコメントの効果的な実施方法について検討していきます。
90	・パブリックコメントを形式的なものとせず、それを超える市民参加を実現するために、市政に課題や情報、意見を届けられるような機能を常設させ、発展させてほしい。例えば、コールセンターや区役所の相談コーナーの充実や市民意見をくみとり、所管部署へつなぐ外部機関などはどうか。(1)	1	C	現在でも「市長への手紙」や「市政いつでもコール」などの制度を運用するとともに、区役所をはじめ様々な窓口で相談等を受け付けていますが、より効果的な広聴の仕組みについて、検討していきます。

91	<ul style="list-style-type: none"> パブリック・コメントと定義されているものの範囲、またその機能について明確にしてほしい。(1) パブリックコメントで求められる意見の範囲や目的がわからないことがある。パブリックコメントがどう活用されると有効なのか考えるべき。(1) 	2	C	パブリックコメントは、京都市の政策や制度の案に対して市民の意見を求め、よりよい政策や制度につなげることを目的としたものです。パブリックコメントでどのような意見が聴きたいのかが伝わるよう、工夫を行っていきます。
92	<ul style="list-style-type: none"> 市議会がうまく機能すれば、パブリックコメントを充実させる必要はないのではないかと。その逆もありえる。二兎を追ってマンパワーや税金を使い、結果市民の対応が十分にできなくなるとすれば、本末転倒である。議会制民主主義とパブリックコメント制度の整合性について議論いただきたい。(3) 	3	C	地方自治制度の根幹は、ともに市民から選出された首長と議会による二代表制にあります。首長は市民の声にしっかりと耳を傾け政策立案を行い、議会は市民の声を背景にこれについて議論し議決する役割があります。市民の意見を反映した政策立案のため首長が行うパブリックコメントなどの市政参加の制度は、こうした地方自治制度の趣旨に合致するものと考えます。

施策8 市民の手ごたえにつながる市政への参加の結果の公表

意見区分	意見要旨 (カッコ内の数字は意見数)	意見数	対応	本市の見解
93	<ul style="list-style-type: none"> 市政に参加している市民がまだ参加していない市民に知らせることが参加を広げるために有効。その上で自分の意見がどう反映されたかを知らせたりすることで、継続的に参加したいと思えるようにすることで、参加する人たちが増えるのではないかと。(1) 	1	C	具体的な取組を進める中で、いただいたアイディアも含めて効果的な伝え方を検討していきます。
94	<ul style="list-style-type: none"> 次もまた参加しようと思える内容が必要と思う。(1) 	1	C	御意見の趣旨を踏まえ取組を推進していきます。

(4) 市民のまちづくり活動の活性化 (第4章 基本方針3) (70件)

施策11 市民のまちづくり活動が多く市民にとって「自分ごと」、「みんなごと」となる情報発信の支援

意見区分	意見要旨 (カッコ内の数字は意見数)	意見数	対応	本市の見解
95	<ul style="list-style-type: none"> 防災情報を発信し続けることが地域の防災への参加を広げることに繋がる。(1) 	1	C	御意見にある地域防災の情報は、多くの市民にとって「自分ごと」と感じられ、地域の活動に関心を持つきっかけとなるものの好例と考えます。御意見の趣旨を踏まえ取組を推進していきます。

施策12 市民が気軽に参加できる『まちづくり活動への入口』となる機会づくりの推進

意見区分	意見要旨 (かっこ内の数字は意見数)	意見数	対応	本市の見解
96	・市民活動が開かれておらず目に見えない。誰もが気軽に入れるその目的にあったスペース（例えば、公共施設や文化財など）で行うことで、誰もが入りやすい市民活動になるのではないか。(1)	1	A	施策の推進例に「開催場所などの工夫を実施」することを記載しました。
97	・ボランティアのきっかけが欲しい。適切なアドバイスなどがあるといい。(1) ・ボランティアに参加したい。新しい仲間ができることを期待している。(1) ・ボランティア募集したいとき、ボランティア活動したいときにコーディネート等してもらえ行政窓口を用意してほしい。(3)	5	A	施策の推進例に「ボランティア活動やまちづくり活動などをはじめようとする際の支援」について記載しました。
98	・市民が気軽に参加できるまちづくり活動への入口となる機会づくりの推進として、まちづくりカフェなど地域密着型事業を増やしてほしい。(1) ・まちづくりカフェは身近で若い人も参加しやすいと思う。(1)	2	A	施策の推進例に「まちづくりカフェ事業の全区への拡大」を記載しました。
99	・機会づくりとともに、成功例を共有するなどいいとこ取りするような環境づくりも併せてできればよい。(1)	1	A	施策の推進例に「市民がまちづくりについての情報収集や意見交換ができる機会を設ける」ことを記載しました。
100	・参加対象者によって、イベントに参加しやすくなる工夫をして欲しい。(1)	1	C	御意見の趣旨を踏まえ取組を推進していきます。
101	・ボランティアポイント制（例：ドイツの「いいことポイント」）のような地域の制度をつくってはどうか。例えば、老人ホームでボランティア、洗い物をするとポイントたまり、いずれ介護や家の補修など自分のためにポイントを使えるような制度。(2) ・まちづくりに付加価値をつけ、市民の参加へつなげてはどうか。楽しんで活動できる仕組みが必要。(1)	3	C	まちづくり活動に楽しんで参加できる工夫は必要であり、御提案の観点も含めて検討していきます。
102	・雪かきボランティアに参加する場合500円負担しないといけないが、自己負担があるとボランティアへの参加が難しくなる。(1)	1	C	まちづくり活動の運営のために、参加者などの費用負担が必要な場合も多くあります。そういった情報が適切に伝わるのが重要だと考えます。

施策13 市民がまちづくり活動に積極的に取り組める企業啓発や社会環境づくりの推進

意見区分	意見要旨 (かっこ内の数字は意見数)	意見数	対応	本市の見解
103	・市政参加やまちづくりに参加する余裕がない。社会全体として市民参加ができるよう、生活に余裕のある仕組みづくりが必要。(1)	1	B	市民の皆さまが市政やまちづくりに参加することにもっと時間が割ける社会となるよう、京都市としても様々な周知・啓発や社会環境づくりに取り組んでいきます。

施策14 市民のまちづくり活動に必要な資源をコーディネートする機能の充実

意見区分	意見要旨 (カッコ内の数字は意見数)	意見数	対応	本市の見解
104	・市民のまちづくりの推進には京都市のきめ細やかな助言等が必要不可欠。(1)	1	A	施策の推進例に「目的に応じたきめ細やかな支援を実施」することを記載しました。
105	・市民活動でもお金がまわる仕組みが重要。(1)	1	B	まちづくり活動の持続性を確保するためにも資金の問題は重要と考えます。補助金等の制度の紹介にとどまらず、お金が回る状況につなぐこともコーディネートの中で必要と考えます。
106	・まちづくりに自主的に関わる人材は貴重。スタートアップの助成も必要だが、団体等のニーズをしっかりと把握し、支援期間が終わっても、活動が継続できるサポートや市役所の体制、気軽に集える場所など、必要な施策を実行してほしい。(3) ・まちづくりカフェでは個人が集まったチームであり、スキルのない素人が多いことも目立つ。区役所からのアドバイスや情報発信、既存団体とのパイプ役などのサポートを充実されることを期待する。(1)	4	B	御意見の趣旨を踏まえ取組を推進していきます。
107	・いきいき市民活動センターなども活用してはどうか。(1)	1	B	まちづくり活動を進める上で活用していただく資源として、市内13か所のいきいき市民活動センターも含まれると考えています。
108	・まちづくりカフェ事業は活動への入口になってもその次のステップへの一歩に苦勞しているように思う。カフェ事業は残しつつ、次のステップも各区で仕掛けることができればよい。施策14に「入口の次の段階」という要素を加えてほしい。(1)	1	C	御意見のとおり、施策14は「入口の次の段階」に対応することを趣旨としています。御意見の趣旨を踏まえ、施策の推進例に具体的な方策を記載し、趣旨をわかりやすく伝えられるよう努めました。
109	・市民主体の活動やプロジェクトを推進している人をサポートし、評価していただける仕組みがあれば、頑張ろうという人も増えてくると思う。(1)	1	C	まちづくり活動の担い手の活動を継続するモチベーションを維持し、高めることは重要であり、御意見の趣旨も踏まえ効果的な方法を検討していきます。

110	<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくりアドバイザーの人数をさらに増やし、地域ごとの専属アドバイザーがつくような制度が設けられれば、地域課題解決、活性化にむけた密な連携がより一層取れるのではないかと。(1) ・まちづくり活動を始める際には最初が難しい。やる気があっても何をすればよいか分からないときに、まちづくりのコーディネートを手がけてくれる人がいると活動が捗る。まちづくりアドバイザーの設置はもっと強調されてよい。まちづくりアドバイザーがより多く設置され、市民に開かれた窓口になるとともに、他の市職員にもその熱意が伝わればよい。(1) ・まちづくりアドバイザーの充実、まちづくりに関連した非常勤嘱託員の増員等、区役所・支所で頻繁に相談したり、一緒に活動できる状況をつくってほしい。(2) 	4	C	まちづくりの相談、コーディネート機能は、京都市のまちづくりアドバイザーだけではなく、様々な団体や機関とのネットワークもいかし充実を図っていきたいと考えています。御提案の内容も含め、効果的な実施方法を検討していきます。
111	<ul style="list-style-type: none"> ・市民活動を推進する方針を提示しておきながら、公用地の売却など市民の協働する活動地域を奪っている。市民活動で困っていることは安価に利用できる場所・施設と活動資金である。(1) 	1	C	市民のまちづくり活動に必要な施設や資金などの確保については、施策14に掲げるとおり支援の取組を充実していきます。
112	<ul style="list-style-type: none"> ・一般市民には「ひと・まち交流館」など市民活動支援施設の敷居が高い。(1) 	1	C	御意見の趣旨を踏まえ、市民活動支援施設がまちづくり活動の資源として一層活用していただけるよう、取組を推進していきます。

施策15 地域力の一層の向上を図る地域コミュニティ活性化の取組の充実

意見区分	意見要旨 (かっこ内の数字は意見数)	意見数	対応	本市の見解
113	<ul style="list-style-type: none"> ・京都市といってもそれぞれの地域事情を抱えている自治がある。市民参加のあり方は1つではないということ認識することが大切。同じ枠組みにはめこもうとせず、地域によって異なるあり方を。「対話のできるまち京都」を目指してください。(1) ・地域コミュニティの活性化については、過疎地域における人の流入が少なく、新たな担い手の育成が難しく、次世代への引き継ぎも困難です。こういった地域への配慮が足りない。他の項目についても京都市中心部が基本となっているような印象を抱いた。こういった地域での企業の力を得ることは困難で、行政の力が求められている。過疎化した地域の良さも積極的に発信する行政の関わりが必要。(1) 	2	A	施策の説明に「それぞれの地域特性に応じた地域コミュニティの活性化」を推進する趣旨を記載しました。

114	<ul style="list-style-type: none"> ・京都市の強みは人と人とのつながりがあること。一方、大学生の関わりが少ない気がする。大学生が地域活動に仲間として受け入れられ、卒業後も関わり続けたいと思えるようにしてほしい。(1) ・地域の活動について、体力や柔軟な発想を期待して、年配の方だけでなく、若者、主婦など立場を超えて参加できる方法を用意することが重要。(1) ・京都市に昔から住んでいる方は地元愛が強く、関係性も深いのが、学生のように短期的に生活する人の地域への関心が薄い。(1) ・町内に若い人が少ないというところもあるが、地域の活動は年配の方が多い、若い人がもっと参加できるようにする工夫とサポートが必要。(4) ・地域による主体的な問題解決を一層すすめるには、自治会町内会を新しい世代に引き継ぐことが重要で。(1) 	8	A	施策の推進例に「学生などの若い世代を対象とする地域活動への参加の機会づくりや、大学や学生が地域と一体になって行うまちづくりや地域活性化の取組を推進」することを記載しました。
115	<ul style="list-style-type: none"> ・マンションと地元住民との関わりが少ない。これからは若い人が多いマンションが地域の行事等にも参加していかないと町内が成り立たなくなってくる。行政が相談窓口をつくったり、マンションに対して町内会等に参加する呼びかけをしたりするなど、もっとマンション、若い人にアプローチをすべき。(4) 	4	A	施策の推進例にマンション住民の自治会加入等を促進する取組を記載しました。
116	<ul style="list-style-type: none"> ・地域力が継続して活かされる工夫をしてほしい。(1) ・地域コミュニティの活性化に全力を注いでいただきたい。(1) 	2	B	御意見の趣旨を踏まえ取組を推進していきます。
117	<ul style="list-style-type: none"> ・地域でのボランティアは普段から交流がないと参加が難しい。交通事情や道路で分断されるなどの問題もある。(1) 	1	C	地域コミュニティの活性化を進めるためにも、地域外からのボランティア協力も含め、地域内外の様々な交流促進に取り組んでいきたいと考えております。
118	<ul style="list-style-type: none"> ・町内の掃除など誘いがあれば行きたいと思っている。地域の行事などへの参加を広げるには、クチコミで広げることが有効だと思う。そのために、クチコミで広がりをつくれそうな幼稚園や小学校、学区での集まりとの関係をつくり、情報を発信してはどうか。(3) 	3	C	御意見の趣旨を踏まえ、地域の住民組織とPTA等の連携などにも取り組んでいきます。

施策16 市民のまちづくり活動を社会全体で支える機運の醸成と仕組みの充実

意見区分	意見要旨 (かっこ内の数字は意見数)	意見数	対応	本市の見解
119	<ul style="list-style-type: none"> ・京都には、行政の責任にしない、頼りすぎない自分たちのことは自分たちで守る風潮がある。京都に住むからにはおもてなしなど個々の高い意識が必要ということを住民として発信できればと思う。(1) 	1	B	御意見の趣旨を踏まえ、京都市としてもまちづくりを社会全体で支える機運を高めるため、取組を推進していきます。

120	・仕事をしている世代が市民参加しやすくするには、ワーク・ライフ・バランスの視点から定時で帰れるようにする、従業員やその家族に対する配慮の仕組みづくりへの奨励など、企業や職場環境の改善も必要。(3)	3	B	御意見の趣旨を踏まえ取組を推進していきます。
-----	--	---	---	------------------------

施策17 ソーシャルイノベーションの活性化				
意見区分	意見要旨 (カッコ内の数字は意見数)	意見数	対応	本市の見解
121	・ソーシャルイノベーションに最も関心を抱いた。大学等でも教育がなされていたり、これから広がりが見込める。しかし、認知度や理解度が低い。大学など教育機関と連携してソーシャルイノベーション教育を推進していくべきだと感じる。そうすれば企業も利益追求だけでなく、地域貢献も視野に入るようになるのではないか。(1)	1	A	施策の推進例に「高校生や大学生に対してソーシャルイノベーションに関する教育や啓発を実施」を記載しました。
122	・ソーシャルビジネス・コミュニティビジネスの説明を欄外に記載してほしい。なじみがない。(1)	1	A	欄外に説明を加えました。また、コミュニティビジネスはソーシャルビジネスの一形態ですので、改定計画では総括的にソーシャルビジネスと言う表現に統一しました。
123	・社会的起業家との連携を深め、ビジネスとして成り立つものが増えれば、京都にはそのチャンスがあると打ち出しもできる。(1)	1	B	御意見の趣旨を踏まえ取組を推進していきます。

施策18 フューチャーセンター機能など、多様な主体の連携を促進する機会づくりや仕組みの充実				
意見区分	意見要旨 (カッコ内の数字は意見数)	意見数	対応	本市の見解
124	・活動したい市民と活動している方とをマッチングできる仕組みがたくさんあればよい。(1) ・同種の活動をしている市民が協働しやすいしくみが必要。(2)	3	A	施策の推進例に、人や資源のマッチング等を実施する新たな仕組みとして「“みんなごと”のまちづくり推進事業(仮称)」を記載しました。
125	・フューチャーセンターは、具体例を出すことで多様な主体が集まってくる。もっと広域の広報が必要。(1) ・フューチャーセンターについて実践例の記載がないと見過ごされてしまう。スローガンで終わらないようにどのようなものにするか具体的に考えを示すべき。(1) ・フューチャーセンター機能の充実を図るにおいて、その場所をどこにするか、広報をいかにするかという課題があると思う。(1)	3	A	施策の推進例に具体的取組の例などを記載するとともに、京都市としてのフューチャーセンター機能に関する考え方を用語解説として記載しました。
127	・協働を促進させる仕組みを整え、さらに活動が結びつくように行政がパートナーの1つとして力を添える体制が整えられているところが非常に良いと感じた。(1)	1	B	御意見の趣旨を踏まえ取組を推進していきます。

126	<ul style="list-style-type: none"> ・フューチャー・センター機能の充実コミュニティ組織と自治体対等な関係で協力・連携関係を構築する協働において大きな役割を果たすと考えられ、充実させてほしい。市民、NPO、大学、寺社等のノウハウや気づきを行政のノウハウでサポートすることで従来の体制ではでてこなかったようなアイデアが出てくる可能性が大いにある。(1) ・フューチャーセンター機能の拡充は重要。(1) 	2	B	御意見の趣旨を踏まえ取組を推進していきます。
128	<ul style="list-style-type: none"> ・市民参加にとってすばらしい取組を生み出している100人委員会を継続し、SNSの活用等で宣伝し、より多くの市民に知ってもらいたい。京都が世界一、市民のまちづくりが盛んなまちにしたい。(1) 	1	C	未来まちづくり100人委員会は、フューチャーセンターの機能を目指した京都市の最初の取組と考えています。100人委員会の成果と課題を踏まえ、京都市としてのフューチャーセンター機能の充実を目指していきたいと考えています。

施策19 多様な主体の協働のまちづくり活動を支える「伴走型支援」の実施				
意見区分	意見要旨 (かっこ内の数字は意見数)	意見数	対応	本市の見解
129	<ul style="list-style-type: none"> ・伴走型支援は主体同士の協働を促しつつよい方向へ導くことができるものであるが、具体性に欠ける。また、過保護気味になるなど必要以上に干渉してしまうことがないよう、線引きも設けるべき。(1) 	1	A	施策の推進例にサポーター派遣など具体的な取組を記載しました。御意見の趣旨を踏まえ、あくまで主体的な活動の支援策となるよう、運用方法について検討していきます。
130	<ul style="list-style-type: none"> ・伴走型支援は有効な手法だと思う。早期の整備と充実を望む。(1) 	1	B	計画の趣旨等に賛同いただいているものであり、御意見の趣旨を踏まえ取組を推進していきます。

(5) 計画を着実に進めるための推進体制 (第5章) (19件)

取組1 各局区・各職場における市民参加推進のマネジメント体制の強化				
意見区分	意見要旨 (かっこ内の数字は意見数)	意見数	対応	本市の見解
131	<ul style="list-style-type: none"> ・「事業のノウハウ蓄積や市民とのネットワークの継承」は数年毎に担当職員が変わる現状から、特に必要であり、そのことを強調するために施策見出しの最後に「と継続」といれてほしい。(1) 	1	A	取組の説明に「持続的な市民参加の推進」を記載しました。
132	<ul style="list-style-type: none"> ・京都市で課題の共有と対話をすすめるためには、様々な場が必要だが、それを容易にするマニュアルやルール、開催支援などの仕組みが市役所の中にこそ必要だと思う。(1) 	1	A	取組例に「市民参加に関する知識、ノウハウ、成功例等の手引きや事例集等を作成」することを記載しました。
133	<ul style="list-style-type: none"> ・市民協働を支える市役所職員の体制を充実してもらいたい。(1) 	1	B	御意見の趣旨を踏まえ取組を推進していきます。

134	・京都市が設置する「市民会議」など、京都市の各部署が推進する事務事業が市民参加推進計画の主旨を反映しているかどうか明らかにすることを計画に盛り込むべきではないか。(1)	1	B	計画の進捗管理には、計画に示された考え方や方向性に沿って各局区が取組を実施できているかも含めて、確認する視点が必要との御意見と理解しました。取組1, 2, 4はまさにそうした趣旨から、取り組むものです。
135	・計画を推進するために各局区が方向性を共有し、連携するための施策が必要ではないか。(1)	1	C	市民参加推進計画そのものが各局区が市民参加推進の方向性を共有するためのものであり、その推進のため庁内の体制等について取組1～4において言及しています。
136	・市民参加の推進や市民との接点について各部署がどのように役割分担しているのか、「市民主体」の意味とともに明らかにすべきである。(1)	1	C	市民参加の推進は各局区の事業等を通じて推進していくものです。また、「市民主体」とは、地方自治の主権者として、市民が自らの意思で行動されることを意味すると考えます。

取組2 職員の市民参加推進に対する意識の向上と能力開発の計画的な実施				
意見区分	意見要旨 (カッコ内の数字は意見数)	意見数	対応	本市の見解
137	・職員の意識向上と能力開発の計画的な実施について漠然としすぎている。(1) ・職員はファシリテーション能力を磨くべき。各区のまちづくりカフェなどに新規採用3年目までに参加するなどの研修を行ってはどうか。(1)	2	A	取組例に「コミュニケーション能力やコーディネート・ファシリテーションの技術やまちづくりに関する知識等を習得する機会の充実」を記載しました。
138	・市職員は仕事としてだけでなく、いち個人としてまちづくりに参加できるように盛り上げるべき。100人委員会など意識の高い職員が優先的に参加し、引っ張ることがよい。(1) ・職員が率先して市政への参加、まちづくりを行ない、その姿を一市民として見せるべきだ。(1)	2	B	「まちづくり活動に積極的に参加する職員の顕彰や、その経験などを生かした職員配置の実施」を記載しており、御意見の趣旨を踏まえ取組を推進していきます。
139	・市職員、区役所が市民参加が楽しいと思えるような経験を出来る場、市民活動に参加できる体制が必要。(1) ・市職員の長所を伸ばすことが市民とのネットワークを広げることにつながると思う。(1) ・市民との対話により出た意見をどう生かすか判断できる職員を育てる必要がある。(1)	3	B	御意見の趣旨を踏まえ取組を推進していきます。
140	・市民参加推進が市職員の当たり前となるよう、部署を超えた生きた有機的なネットワーク構築をすることが大切である。(1)	1	C	職員相互のネットワークづくりも経験の共有などを進める上で有効と考えます。御提案の内容も含め、具体的な取組方法を検討していきます。

141	・市民参加への理解と経験値を高めることはもちろん、現場での日常的な市民参加に対する評価をしていただきたい。モデル的職員がおれば評価、紹介し、地位を与えるべき。(1)	1	C	市民参加に取り組む職員のモチベーションアップは重要と考えます。御提案の内容も含め、具体的な取組方法を検討していきます。
-----	--	---	---	---

取組3 区役所・支所の総合調整機能の強化				
意見区分	意見要旨 (かっこ内の数字は意見数)	意見数	対応	本市の見解
142	・まちづくり活動のコーディネートには区役所が単なる総合調整機能に留まらない機能を持つことが重要だ。(1)	1	A	取組例に「区長の権限強化」, 「企画体制の充実」などを記載しました。
143	・市政への参画機会が少ないと感じる。市民に最も身近な区役所・支所の機能強化を期待する。(1)	1	B	計画の趣旨等に賛同いただいているものであり、御意見の趣旨を踏まえ取組を推進していきます。
144	・市役所と区役所、京都市と近隣自治体など行政組織内外の情報連携がとれていないと感じる。特に区への情報集中が必要。(1)	1	B	御意見の趣旨を踏まえ取組を推進していきます。

取組4 市民参加推進計画の進捗状況や課題の公表				
意見区分	意見要旨 (かっこ内の数字は意見数)	意見数	対応	本市の見解
145	・進捗状況の把握が簡易な計画にしてほしい。(1)	1	C	計画改定に際し施策の整理等を行いました。御意見の趣旨を踏まえ、進捗管理の方法についても、市民の皆様にも進捗状況が容易に把握できるよう検討します。

(6) その他、市政運営等に参考にさせていただく御意見 (46件)

以下の御意見は、個別の施策等に関する貴重な御意見であり、今後の市政運営の参考にさせていただきます

意見区分	意見要旨 (かっこ内の数字は意見数)	意見数	対応
146	・市政協力員として市民しんぶん等を配布したことがあるが、配布するだけで市政に関わっていないように感じる。市政協力員に対して情報をもっと提供し、理解を得ることが必要だ。(1) ・自治連合会等は任意であり、全住民の窓口にはなりえない。京都市からの情報提供は市政協力員制度を全庁的に適切に運用することを明文化すべきである。その上で、地域内の自治連合会や商店組合など、それぞれに合わせて適切に情報提供をすべき。(1)	2	D

147	・仕事を引退された方などお年寄りが相互に助け合う仕組みがあると良い。(1)	1	D
148	・個人情報保護に対する過剰反応が市政協力を支障をきたしているのではないか。市民同士、市民と行政がお互いに知り合えることに喜びを感じられるような考え方をしていただきたい。(1)	1	D
149	・町の美化には、市民の倫理観を上げる参画意識が大切。(1)	1	D
150	・市政報告書を各世帯に配布すべき。(1) ・市民しんぶんや暮らしの手引きをマンションでも各世帯に必ず届くようにすべき。(1)	2	D
151	・京都市広報版をもっと整備・増設すべき。(1)	1	D
152	・約束を守らないボランティアがいた。行政がボランティアをサポートしてほしい。(1)	1	D
153	・選挙では日本国籍を持たないことを理由にその権利を有していない人がいる状況があり、是正する必要がある。市民参加の視点からもこの問題に向き合い、仕組みを変える働きかけをすべきである。(1)	1	D
154	・市政ボランティアの「健康づくりサポーター」が、「健康長寿のまち・京都市民会議(準備会)」へ参加することが京都市によって決定されていた。こうした意思決定は、個々のボランティアとの対話や、その意見を踏まえて行うべきではないか。(1)	1	D
155	・町内の自治会館の利用のされ方が分らない。もっと利用できるようになることで、「自分ごと」「みんなごと」を結ぶ仕掛けとなるのでは。(1)	1	D
156	・既得権を持つものがうっとおしい。(1)	1	D
157	・100人委員会の具体的な活動、運営方法等に対する御意見、御感想(6)	6	D
158	・子育てを人任せにする若い子育て世帯が増えているように思う。もっと自分の子供を責任を持って育てるという意識を促すような支援をしてほしい。(1)	1	D
159	・段ボール、カン、ビンなどのリサイクルできるゴミの集積所・日を増やして欲しい。(1) ・古紙回収拠点がわかりにくい、学生には出しにくい時間だったりするので、工夫してもらいたい。(1)	2	D

160	<ul style="list-style-type: none"> ・京都市はバス運賃が一律で観光しやすいが、決められた時間にバスが来ない。(1) ・市バスがとても混雑している。本数を増やして欲しい。市バスは混雑しているので高齢者は移動しにくい手段となっている、高齢者専用のバスやタクシーをつくってはどうか。(1) 	2	D
161	<ul style="list-style-type: none"> ・四条河原町など中心街に休憩できる椅子がない。(1) 	1	D
162	<ul style="list-style-type: none"> ・公共施設の多言語化を推進すべき。(1) 	1	D
163	<ul style="list-style-type: none"> ・京都に住みたい、留学したいと考えている外国人が増えているそうだが、積極的に受け入れ対応できるように行政がサポートできるようにしてほしい。(1) 	1	D
164	<ul style="list-style-type: none"> ・歩くまち京都を推進しているが、自転車の駐輪場が少ない。自転車共有システムをつくってはどうか。(1) ・繁華街に無料の自転車置き場を設置してほしい。(1) 	2	D
165	<ul style="list-style-type: none"> ・地下鉄の料金が安い。(1) 	1	D
166	<ul style="list-style-type: none"> ・市バスとスクールバスを一緒にすると大変。京都市から大学へ提案をしてほしい。(1) 	1	D
167	<ul style="list-style-type: none"> ・京都Wi-Fiにつないでもすぐに切れてしまうので強化してほしい。(1) 	1	D
168	<ul style="list-style-type: none"> ・路上駐車が多く、バスやタクシーの運転にヒヤリとすることがある。交通環境をもう少し整備してほしい。(1) 	1	D
169	<ul style="list-style-type: none"> ・国際関係の計画があれば、外国人も入りやすい。(1) 	1	D
170	<ul style="list-style-type: none"> ・土木事務所への呼びかけだが、空き地の活用、例えば、園芸広場にしてほしい。市民と行政の間が縮まると思う。(1) 	1	D
171	<ul style="list-style-type: none"> ・知り合いの病院の送り迎え、家の掃除をしてもらおうと助かる。(1) 	1	D
172	<ul style="list-style-type: none"> ・タバコのポイ捨てがきになる。公園のゴミ箱がなくなり、近所の方が掃除をしている。ゴミ箱を増やして欲しい。(1) 	1	D
173	<ul style="list-style-type: none"> ・仁和寺から西、福王子から高雄街道西入るのバス通りが傾斜があって危険。身近なところをどうにかしてほしい。(1) 	1	D
174	<ul style="list-style-type: none"> ・より良い観光都市をめざしたい。(1) 	1	D
175	<ul style="list-style-type: none"> ・京都は観光地だけでなく、もっとすばらしい。(1) 	1	D
176	<ul style="list-style-type: none"> ・京都の伝統工芸や京野菜などを展示、販売するブースを地下鉄駅などに出店、バス停に無人販売を設置し、財政の足しにする施設の充実が必要。(1) 	1	D

177	・他都市に誇れる活動を推進してほしい。(1)	1	D
178	・若者が働きがい、やる気が持てる市政を推進してほしい。(1)	1	D
179	・環境先進都市であることをアピールしてはどうか。(1)	1	D
180	・災害のときに集まる場所をみんなが知っているのか不安。(1)	1	D
181	・学区の委員と地域とが別々となり、まちづくりの担い手が不足している。	1	D